

このまちにのこしたい文化遺産

本證寺鼓樓解体修理を終えて

本證寺について

本證寺境内の東、水を湛えた内堀とそれに面して建つ鼓樓は、安城市の歴史的景観を代表するといっても過言ではないでしょう。

本證寺は鎌倉時代の創建とされ、戦国時代には三河三か寺(※1)の一つとして一向一揆で徳川家康と戦った寺でもあります。江戸時代になつてからは、中本山格寺院としてこの地域に多くの末寺を抱え、三河真宗の中心的寺院として隆盛を極めました。

今、その面影は、広大な境内地にひととき高く棟を上げた大きな本堂と諸堂、及び境内の北側に残る城郭を思わせる土塁や堀に見とれます。鼓樓(太鼓樓ともいいます)は、真宗寺院の特徴的な建物で、時を告げる役目を果たしていました。本證寺の鼓樓は、経蔵・鐘樓・裏門と共に平成17年に市指定文化財に指定されました。昨年8月から始まった解体

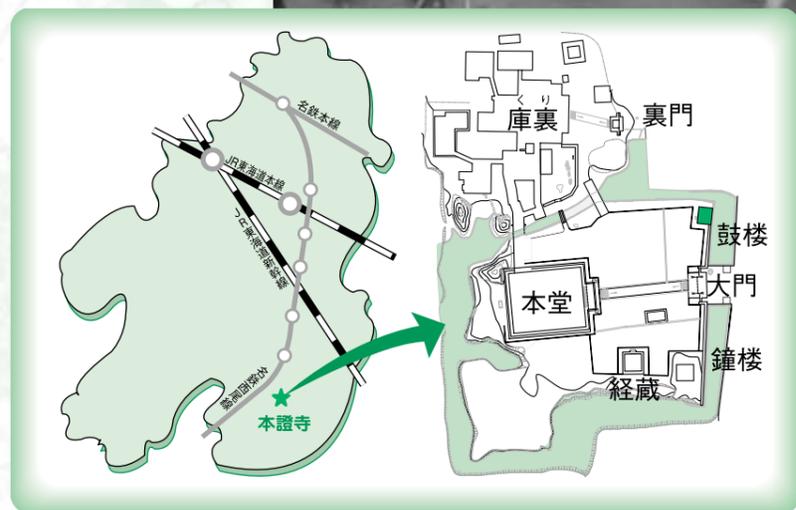
修理では、単に建造物の保存修理というだけでなく、安城市を代表する景観を後世に引き継ぐという意味も含まれています。今回の特集ではこの市民共有の財産である鼓樓の修理経過をすることで、今を生きる私たちが古人の知恵に学び、これからのまちづくりにも活用していければと願っています。



本證寺本堂



本證寺鼓樓(解体修理前)



※1 三河三か寺 岡崎市上宮寺・勝鬘寺と本證寺。